

まちづくり瓦版

～うつくしま、まちづくり推進レポート～

Vol.64 平成31年2月25日発行

平成30年度地域づくり交流会 開催報告

今回の瓦版では、平成31年1月17日（木）に開催された「平成30年度地域づくり交流会」の開催内容についてお知らせします。

当日は約80名の方に参加していただき、先進事例の紹介や情報交換会が行われました。県内各地での地域づくりの参考にいただければ幸いです。

1 開会あいさつ

福島県土木部次長（都市担当）相澤広志

本交流会は、地域づくり支援の一環として地域づくり団体や行政等が、地域づくりに関する情報交換やディスカッションを行いながら、お互いの交流を深める目的で、平成16年度から開催している。

東日本大震災から8年が経とうとしているなか、福島県の復興・創生をさらに前に進めるためには地域が元気になること、その元気を全国に発信していくことが必要であり、本交流会がそのきっかけの一つになればよい。



相澤 土木部次長

2 【第1部】先進事例紹介

『国見町地域づくり事業「国見ホイスコーレ」』

国見町 企画情報課 総合政策室 室長 八島章 氏

ホイスコーレとは、デンマーク発祥の教育制度である「フォルケホイスコーレ（Folke høj skole）」から取っている。

若者同士や地域そして行政がつながる場所であったり、若者が地域を知る、愛着を育む場所をつくりたいという思いで始まった。「国見ホイスコーレ」は「出会い」と「実体験」による学びの機会をつくる国見版オリジナルの「人生の学校」である。



八島 氏

【取組内容（3つのプロジェクト）】

①プロジェクト学習（対象：中学生）

中学生に対して学校教育では手を広げられないような「学ぶ楽しさ」や「何故、自分が学んでいるのか」を学ばせる目的で行っている。

歴史、法学、哲学など様々なコンテンツを用いながら、対話を中心とした授業で子供たちの興味、関心を広げる。

②カスタムラボ（対象：高校生～若手社会人）

若者（高校生から若手社会人）が実際にやりたいことを行政や他の知見を持った人達と繋がりながら実際に物事をやってみるもの。それにより、実行力や共同する力や、やりぬく力などを育てる。

実際に、若者達が町民の人とふれあうために、道の駅を一日貸し切ってバーを開いた。集客人数も多く、様々なメディアにも取り上げられた。

(3)短期プログラム（対象：高校生～）

2泊3日の日程で、首都圏をはじめとする全国から様々なバックグラウンドを持った15名の参加者のもと開催。

空き家となった古民家を宿泊場所として3つの未知（地域、人、自分）と出会うことコンセプトとしている。参加者は、それぞれ国見町との継続した繋がり築いている。国見町に移住を決意した方も現れている。

【北欧学生地域デザインプロジェクト、JAS プロジェクト】

11日間の日程で、欧州学生、日本学生と地域住民らが協働で地域の将来を考えるプロジェクト。国見町の貝田地区で、デンマーク、スウェーデン、中国、日本の12名の学生たちが参加した。参加者がフィールドワークやワークショップを行い、町民に対してまちづくりに関する提案を行った。

町民もこれをきっかけに、実行する団体を作ろうという動きになっている。

【今後の展開】

ゆくゆくの国見町を背負って立って欲しいという思いではなく、若者達が幸せに、自分達が生きたいように生きられるところを国見町としてバックアップしている形で取り組んでいる。ローカルでしか学べないところを見つけられる場所として国見ホイスコーレという場があれば良いと思っている。

【参加者からの感想】

- ・何を勉強すれば、何になりたいか思いついていない学生にとって、素晴らしい取組だと思った。
- ・いかに「こちら側」に興味関心を持ってもらうか、そのきっかけをどう作っていくか、素晴らしい成功事例であると感じた。
- ・ホイスコーレの参加者から移住者が生まれたのが素晴らしいと思った。若者の新しい考え方や行動力は大きな力になると思った。

3 【第2部】地域づくり事業（制度）紹介

①昭和村 旧喰丸小学校交流観光拠点整備

昭和村 産業建設課 観光交流係 係長 菅家弘樹 氏



菅家 氏

くいまる
喰丸小学校は、昭和12年に建築されたが、少子化が進み、昭和55年に廃校となった。

その後、取り壊しの計画が進められたが、平成22年に映画「ハーメルン」の舞台となったことを契機として、地元では旧校舎の保存・活用の機運が高まり、存続が決定し、交流観光拠点施設として改修・整備が行われた。

旧喰丸小学校は「学び」「暮らし」「交流」「産業」の4つの領域で、地域の魅力発信と人口減少対策、住民の交流拠点としての役割を担っている。

【クラウドファンディング*の活用】

改修のための資金集めの方法として、クラウドファンディング(crowdfunding)を活用した。

クラウドファンディングを実施していることをより多くの方に知って貰う必要があるが、昭和村の場合、支援者層として比較的高齢な方が多いと推察していたので、はじめからオフライン（郵便振替や銀行振込）による方法を行ったが、これが非常に効果があった。

2,400万円という目標に対し50%の1,200万円程の資金提供があった。反省点として、「なぜこのタイミングでの資金調達が必要なのか」の説明が十分でなかったことが挙げられる。

※クラウドファンディング・・・群衆 (crowd) と資金調達 (funding) を組み合わせた造語で、インターネットを通して自分の活動や夢を発信することで、想いに共感した人や活動を応援したいと思ってくれる人から資金を募る仕組み。

【今後の展開】

旧喰丸小の力を借りて、村に住んでいる人と訪れる人、一人一人との交流を大切に皆が楽しく、スタッフも楽しみながら活動できる事業展開、情報発信を行い、人口交流の拡大と移住・定住に繋げていきたい。

【参加者からの感想】

- ・解体が決まっていた校舎も映画という思いがけないところから保存、活用の契機となったところがおもしろい。取り壊すことは簡単であるが、アイデアと熱意により地域資源になりうるのだとわかった。
- ・「楽しくやる」ということが大事だということが参考になった。
- ・本村にも小学校が2校あるが、少子化の流れから、いずれ統廃合の話題も浮上してくると思われることから、統合後の廃校利用の参考となる事例だった。
- ・以前、旧喰丸小学校に行ったが、残すための苦労が伝わった。

②須賀川市 風流のまちづくり

NPO 法人 チャチャチャ21 副理事長 大倉秀夫 氏

南部地域の6町内会が連携し、地域と歴史と文化を発信する協議会を設立し、平成18年に「NPO 法人チャチャチャ21」を発足した。チャチャチャは「チャンス」・「チャレンジ」・「チャンネル」の頭文字を取っている。

「風流」とは、時代の流れに流されず、造りすぎず、飾りすぎず、ありのままの心の動きを楽しむ余裕、心意気と定義付けている。

また、須賀川は松尾芭蕉が8日間滞在したことから、俳句の町としても発展させている。



大倉 氏

【活動内容（三本柱）】

(1)地域づくり活動

簡単にできることとして、「椅子どうぞ」「傘どうぞ」など「どうぞ運動」を実施し、訪れた方へのおもてなしを行っている。

軒行灯に芭蕉や相楽等躬など俳人の句を載せた軒行灯を店や家の前に設置し、風流のまちを発信している。

(2)ふるさと教育活動

ふるさとの偉人、歴史を紙芝居形式で紹介する物語ボックスを設置している。

芭蕉すかがわ民話館において、語りべにより、地域の伝承民話や方言の次世代へ継承を行っている。

自分の町を知ることによって町を好きになり、好きになることで住みたいと思い、そう思う人が多くなることによって町が良くなるという考えから、須賀川ふるさと検定を実施。

(3)芭蕉顕彰関連活動

実際に松尾芭蕉が須賀川の町を歩いた足跡を記した地図を作成した。足跡を調べるのは結構大変だったが、それにより自分達の幅も広げる事ができた。

須賀川には芭蕉だけではなく、句碑が約130あると言われており、句碑あんない手帖の作成や、句碑をめぐるツアー等も開催している。

【『Rojima』すかがわ路地 de マーケット】

震災により多くの店舗や蔵が壊れてしまったが、まちを活性化するために、これらを利用して店を再開しなければならないと模索をしながらできたのがRojima(路地 de マーケット)。毎月第二日曜日に開催している。当初(平成27年)は出店者数が25店舗であったが、平成29年は4倍の100店舗まで増え、非常に活性化に繋がっている。

【今後の展開】

2019年6月くらいまでに松尾芭蕉の足跡をたどるツアーを行い、地域内外に広げていきたい。また、地域に誇るべき須賀川であるということの子供たちにも広げていきたい。

【参加者からの感想】

- ・「どうぞ運動」は取り組みやすいと感じた。
- ・できるところから始めて、現在は多岐にわたる事業展開をしている。まずはできるところから動くというお手本だと感じた。
- ・自分の町をありのまま受け止め、活用しているところが印象的。背伸びをしないのは共感できると感じた。
- ・行政との連携がうまくできていると思った。
- ・今度行ってみたいとなった。

③石川町 中田地区におけるランドスケープ計画実践による地域づくり

NPO 法人 ふくしま風景塾 理事長 仲田茂司 氏



仲田 氏

千葉大学と連携した石川町中田地区のランドスケープ計画を実践している。

中田地区は近代、馬産(優良な軍用馬)が盛んな地域であったことから、それを活用した地域づくりを行おうとスタートした。

【人馬一体の地域再生】

大正時代に作られた馬を訓練するためのトラックが樹林化していたが、地元と千葉大学の留学生と一緒に草刈りを行って、馬が走れる状態にした。また、馬をテーマにした造形物やアート作品の作成、散策路の整備等を行った。

【人馬ウォークラリー】

平成30年6月に、馬と一緒に歩く人馬ウォークラリーを開催した。廃校となった旧中谷第二小学校をスタートし、かつて人馬が通った古道約6kmのコースを歩いた。

【国際ワークショップ】

平成30年10月に国際ワークショップを開催した。千葉大学の留学生7カ国(スウェーデン、ドイツ、ロシア、イギリス、イタリア、中国、インドネシア)から25人が参加した。ワークショップでは、中田地区の地質の特徴である変成岩を活かし、矢羽根積みによるサインづくりや、人馬ウォークラリーを行った。

サインづくりでは、サインのデザインのコンペを学生間で行い、最優秀となったものを採用した。

【今後の展開】

上記の取組に合わせて、大学や留学生等を宿泊させる里山園芸民泊も行っており、優良事例として観光庁のHP(<http://www.mlit.go.jp/common/001271518.pdf>)で紹介されている。

今後は酪農家、林業家にも呼びかけて酪農民泊、林業民泊として宿泊できるようにしたいと考えている。

【参加者からの感想】

- ・我々には日常の一部であるものでも、海外の方にとっては新鮮で、非常に興味深く見えるものだということに同意。奥会津におけるインバウンドにも繋がる話であった。
- ・地域の歴史からのまちづくりと、地域でできる規模で進めているところが参考になった。
- ・留学生から、自分達のまちの景観のすばらしさを発見し、活かした活動がすばらしいと思った。

④福島県区画整理協会の地域づくり活動支援制度について

公益財団法人 福島県区画整理協会 企画課長 鈴木貴史 氏

【制度概要】

福島県内における地域づくり活動や研究を行う団体の支援を目的に設立。

【対象団体と補助額】

- ◆一般公募の対象：県内に活動拠点があり、5名以上の団体で2年以上の活動履歴があり国・県及び市町村からの財政支援を受けず、公益性のある団体
 - ※補助限度額 1年目 50万円
 - 2年目 100万円
- ◆特例措置の対象：(1)県内で土地利用及び面的整備を計画している地元組織大学・高校等のまちづくりに関する研究活動を行うサークル
- (2)福島県区画整理協会の公益目的事業と連携する地域活動団体等
 - ※補助限度額 1年目 100万円
 - 2年目 200万円

【今後の取組】

現在、制度の中身は2カ年になっているが、3、4カ年に渡って支援して欲しいという要望もあり、要綱の見直しなど、より使いやすい制度への検討を行っている。

⑤地域創生総合支援事業（サポート事業）制度紹介

福島県 企画調整部 地域振興課 主査 大橋和之 氏

【事業概要】

県民の皆さんが主役となる個性と魅力ある地域づくりを推進していくために、民間団体等が行う地域振興の取組を支援するもの。

事業区分には(1)一般枠、(2)健康枠、(3)過疎・中山間地域集落等活性化枠、(4)地域資源事業化枠がある。

【応募の流れ】

- (1)募集開始→(2)相談→(3)計画書提出・ヒアリング→(4)審査・採択決定→(5)採択の内示→(6)申請書類提出→(7)交付決定通知→(8)事業開始
- ※(1)募集開始の前段階でも、活動内容や事業採択の可否に関する相談は、地方振興局で随時受け付けている。
 - ※一般枠は(1)募集開始から(3)計画書提出までの期限が例年大変短いため、事前相談をした方がよい。

詳しい内容等については県地域振興のホームページや管轄する地方振興局に相談いただきたい。

(地域振興課 HP：<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/11025b/tiikishinkou-1111.html>)

4 【第3部】情報交換会

以下をテーマとした4グループに分かれ、それぞれ今後の取組について参考とするために情報交換を行いました。

- ①国見町（地域づくり人材育成）
- ②昭和村（クラウドファンディング活用による地域づくり）
- ③須賀川市（地域づくり体制整備）
- ④石川町（歴史的資源を活用した地域づくり）



情報交換会の様子

○第1部、第2部の内容で詳しく知りたいことや、自分達の地域づくり活動のなかで参考にしたいことなど、活発な意見が交わされました。

【参加者からの感想】

- ・グループ毎での話し合いができて、有意義だった。
- ・少人数での話し合いなので、気軽に話げできた。
- ・色々な事例や地域づくりを行っている方の話を聞くことができ参考になった。

📖 編集後記 📖

平成最後の地域づくり交流会となりましたが、たくさんの方にご参加いただき、ありがとうございました。地域毎に資源や条件が異なりますが、それぞれの取組みに色々な工夫・苦勞があり、我々も大変勉強になりました。次回も皆様からいただいたご意見を参考により有意義な交流会を開催できるよう努めてまいります。

まちづくりに関する話題がありましたら、積極的に掲載していきたいと思しますので、まちづくり推進課まで情報を下さい。また、地域づくりを進める上でのご相談・ご質問などにつきましてもご連絡いただければと思います。

土木部メールマガジン登録随時受付中!!!

土木部メールマガジンでは、土木部の取組みや情報を定期的に発信しています。最新号のメール配信を希望の方は、メルマガ登録をお願いします。

これまでに配信したメールマガジンについては、土木企画課のホームページ (<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/41025a/doboku-mm.html>) からご覧いただけます。

メールマガジン（無料）の配信をご希望される方は

【土木部メルマガ希望または、解除】



をお書きのうえ下記アドレスまでメール送信して下さい。

doboku_mailmagazine@pref.fukushima.lg.jp

土木企画課(システム担当) 024-521-7886

【まちづくり瓦版 発行元】
福島県土木部まちづくり推進課

TEL 024-521-7511

FAX 024-521-7956

e-mail machizukuri@pref.fukushima.lg.jp

URL <http://www.pref.fukushima.jp/machi/>